

歯周病の予防と治療に取り組む

人のもつ免疫力に着目

歯学部、永田俊彦先生の研究室では、臨床を中心に、学位・教育とかがたよらずに学ぶことを大切にしています。先生と助教・講師を含めて22名(取材時点のメンバー)がわさあいいいと研究に取り組んでいます。自分の勉強は診療が終わってから、真夜中になることもしょっちゅうです。

板東美香さんもその一人です。

医学系の道に進んだのは、自分のまわりに医療関係の人がいなかったことからですが、普通は逆の場合が多いもの。珍しいケースではないでしょうか。

なかでも歯学部に興味をもったのは、高校の時に自分が正常な歯の数より1本少ない(先天欠損)ということに気がついたことがきっかけです。自分自身のこと、歯の発生のメカニズムや歯に関係する仕事に興味を持ったそうです。

板東さんが研究しているのは、生にきつとプラスになると思います。また、みんなおしゃべり好きでやさしい人ばかりで、わからないこともすぐアドバイスをもらえますし、好きな音楽を流しながら実験したり、仲間と映画を見に行ったりして気分転換をしながらいい環境の中で研究をしています。」

将来は、できれば大学に残って臨床に結びつく研究をしたいそうです。そのため機会があれば留学もしたいとのこと。

永田先生のことは、「大学院生活のなかで人生の楽しみを見つけたと言ってくれます。とてもフレンドリーというのでしようか、私たちと同じ目線に降りてきて、気さくに声をかけてくれます。」と語ってくれました。

日本人の大半がそうであると言われている歯周病についてです。

歯周病の予防で私たちが日常的にできる一般的な方法はブラッシング(歯みがき)です。しかしそれでも多くの人が歯周病を持っているのです。歯周病の治療や予防に関する研究は世界中で行われていますが、まだ決定的な手段は発見されていません。

他の病気の治療と同様に、現在注目されているのが人の持つ免疫力です。人は様々な免疫システムを持っていて、板東さんは、自然免疫において重要な役割を担う抗菌ペプチドに注目し、その中でも歯肉(歯ぐき)に発現するカルプロテクチンというタンパク質を取り上げて研究しています。現在のタンパクは歯周病だけでなく、皮膚病や関節リウマチなどの治療においても期待がもたれています。

カルプロテクチンは歯周病原菌に対して抗菌作用をもつことが知られています。私たちはこのタンパクを

一方、永田先生自身は、ひとりひとりの個性を大切に、勉強以外のことも気軽に相談にのることを心がけています。「欠点を見ずに長所を見るようにしています。51%の長所があればいいですね。それを70、80%に伸ばしていくことが大事です。また大きな目的を持って、今どう進むべきかということもよく話します。」という永田先生は、寛容の精神を大切に、自分で考えさせることを大切にしています。しかし研究に関しては目に見える形にしないと評価しないという姿勢です。私たちの大切な歯の健康のために、永田先生と研究室のメンバーに大いに期待しましょう。

クを歯肉などで過剰に発現させることができれば、歯周病の予防や治療に応用できると考えています。

楽しい仲間と共に

臨床と研究の両方をこなすために、板東さんも帰りが真夜中になることはあたりまえの毎日。休日返上で研究することも多いのですが、

「大学院生活は体力と忍耐力が必要だと感じます。研究は時間をどんなに費やしても結果がでなくてそれが何ヶ月も続くということもしばしばです。その生活のなかで全くストレスを感じないといったらうそになりませんが、この経験は大学院修了後の自分の人

